

## 消防防災対策（通信指令センター共同運用運営事業）

### 防犯灯LED照明導入促進事業

アナ： 「市長が語る 2015 三島」第20回の今日は、「消防防災対策（通信指令センター共同運用運営事業）」と「防犯灯 LED 照明導入促進事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： まず最初に「通信指令センター共同運用運営事業」について教えてください。

市長： 三島市は、裾野市と長泉町と共同で主に119番の受信を業務とする高機能通信指令システムを備えた施設を現在の三島市消防本部がある敷地内に建設し「三島市、裾野市及び長泉町消防指令センター」として、この10月から運用を開始します。

アナ： なるほど、この10月から運用開始されるわけですね。119番は1年間に、だいたい何件くらい入るのですか。

市長： 平成26年の受信件数は、三島市は6,035件、裾野市は2,619件、長泉町は1,898件の合計10,552件の受信がありました。

アナ： 受信件数が1万件を超えるということですね。では、消防指令センターに備えられる高機能通信指令システムとは、具体的にはどのようなものでしょうか。

市長： 固定電話や携帯電話などからの119番通報、聴覚障がいや言語障がいのある人が携帯電話からメールを利用して119番通報ができるシステムの「メール119」やFAX119番による通報にも対応しており、最新の位置情報システムを活用することで災害発生地点を素早く特定できます。また、災害規模や種別に応じて出動車両を自動選別することで、迅速に出動指令を行うことができます。出動車両についても最新の車両運用端末を搭載し、災害場所や災害情報を共有できるほか、消防救急無線をデジタル方式とすることで、通信の秘匿性が高まり、災害現場で活動する隊員間で、より確実な情報共有や指示伝達が行える通信手段が確保されます。

アナ： 高機能のシステムを活用することで災害の発生場所が素早く特定できて、迅速で的確な活動ができるということですね。

市長： 三島市は南海トラフ巨大地震においても津波による被害はないと想定される地域ですが、近年の災害は、複雑多様化し、更に大規模化の傾向にありますので、初動体制の強化が、これらの災害に対しての対応力の強化に繋がると考えております。この施設は、なお一層の市民の安全安心の向上を目指す上で大切な位置付けとなると考えております。

アナ： 続きまして、「防犯灯 LED 照明導入促進事業」とはどのような事業でしょうか。

市長： 市内の防犯灯は約 7, 000 灯で、そのほとんどが水銀灯や蛍光灯です。

これらの防犯灯を、環境省の補助金を活用し、今年度中に全て最新の LED 灯に交換したうえで、平成 28 年度から 10 年間のリース事業として管理していこうというものです。リース終了後は市の財産として移管されることとなっております。

アナ： かなり大規模な事業のようですけれども、この事業のメリットをお聞かせください。

市長： 一番のメリットは、電気使用量が少なく、地球温暖化の原因と言われる二酸化炭素排出量が大きく減ることです。

具体的に申し上げますと、昨年度の市内防犯灯の電気料金は合計で約 5, 200 万円ですが、これが 1/3 程度に減少しますので、リース料金をプラスしましても、毎年約 2 千万円以上の予算削減効果が見込まれます。

また、二酸化炭素排出量も 10 年間で 1 万トン削減できます。これは杉の木 71 万本が 1 年間で吸収する量に相当します。

また、二番目として LED 防犯灯の寿命は 15 年程度と、水銀灯や蛍光灯に比べて 5～6 倍程度と大変長く、電球切れもほぼなくなります。

アナ： 様々なメリットがあるのですね。最後に市民の皆様には何かお伝えしたいことはありますでしょうか。

市長： 調査や取替工事は、市民の皆様にもなじみの深い地元電気業者が実施する予定ですが、防犯灯の場所によっては、お住まいの敷地に調査員や工事関係者がお邪魔させていただく場合がございます。

敷地にお邪魔する際には、必ず身分証明書などをお示しいたしますので、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。